

取扱説明書

SCUBAPRO®

SCUBA
GUMI



BUG Jelly

本取扱説明書で使われている マークについて

本取扱説明書では、本製品の操作や機能を十分に理解していただくために以下のような表示を使用しています。この部分は特に注意してお読み下さい。



注意！

ダイビングを安全に行い、かつ危険な状況を早期に回避するために、守って欲しい注意すべき情報や特徴を明記



危険！

危険な状況を知らせる警告。警告を無視した場合、生命に関わる危険な状況に陥る可能性があります。この警告には必ず従って下さい。

スイッチの表示



LOG スイッチ

水検知スイッチ

PLAN スイッチ

本取扱説明書では、スイッチをマークにして、表示もしています。赤いスイッチ部が押すスイッチです。



左図はLOGスイッチを押しながらPLANスイッチも一緒に押すという意味です。

点滅の表示



画面マークの見方

P10, 11に掲載されています。必ずご覧下さい。

本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用にあたって、まず以下のことをご留意下さい。

重大な注意

- ★ご使用前に、取扱説明書全てを注意深くお読み下さい。
取扱説明書内の操作方法や警告、注意事項を守らないと、重大な障害、あるいは生命に危険を及ぼす可能性があります。
- ★取扱説明書は、本製品と一緒に保管および携帯し、必ず読まなくてはなりません。
- ★不明点がありましたら、ご遠慮なく、ご購入されたプロショップまたはスキュー(プロ)アジア(株)までお問い合わせ下さい。

目次

ご使用前の注意点	3
ご使用にあたっての危険事項	5
ダイバーとしての「警備」	8
I 本製品の概略	9
1. 各部の名称	9
2. 画面のマークの見方	10
3. 装着の仕方	11
4. 特徴	12
5. 表示モード	13
5.1 モードの変更一覧	13
5.2 モード説明	15
II LOWバッテリー警告	16
1. 機能説明	16
III タイムモード	17
1. 機能説明	17
IV 時刻修正モード	18
1. 機能説明	18
2. 時刻修正方法	19
V ダイブプランモード	20
1. 機能説明	20
2. 深度のバーグラフ表示	21
3. ダイブプランの立て方	22
VI ダイブタイムアラームモード	23
1. 機能説明	23
2. ダイブタイムアラームの設定&解除方法	24

VII ダイブモード	25
1. 機能説明	25
2. メイン画面表示	26
3. 現在深度のバーグラフ表示	27
4. 水中でLOGスイッチを押す	27
5. 水中でPLANスイッチを押す	28
6. 体内窒素量のバーグラフ表示（ダイビング時）	29
7. 警告機能	30
VIII サーフェイスモード	34
1. 機能説明	34
2. 体内窒素量のバーグラフ表示	35
IX ログモード	37
1. 機能説明	37
2. その他の記録	39
3. ログモードの操作方法	40
X 自動高所対応	41
1. 機能説明（高度ランク）	41
XI トラブルシューティング	43
II 付属録	49
1. 取扱い上の注意	49
2. 保証	51
2.1 保証規定	51
2.2 「製品保証書」および「保証登録カード」 取扱いのご注意	52
製品概要	53

必ずお読み下さい！ ご使用前の注意点

①Cカード取得者以外での使用は禁止されています。

世界的に認定されたダイビング指導団体による、少なくともベーシックのオープンウォーターダイビングトレーニングを受講し、認定書（Cカード）を取得したダイバーでなくては、本製品を使用してはいけません。

②この取扱説明書と、本製品に関する警告や注意を全て読まなくてはなりません。

本製品の操作を誤ると、重大な障害や生命に危険を及ぼす事態すら招いてしまうこともあります。そこで自分勝手に限られた項目だけピックアップし読むことは、重要な情報を見落としてしまうこととなります。リスクを最小限にするためにも、この取扱説明書全てを理解するまで読まなくてはなりません。

③本製品を、海洋や、より本格的な環境で使用する前に、プールなどの限定水域で使い方をマスターするまで練習しなくてはなりません。

④スキューバダイビングへ出かける前に、本製品を点検しなくてはなりません。異常があった場合は、使用してはいけません。

スキューバダイビングへ出かける前に、各部を点検し、異常があった場合は、プロショップを通しスキューバプロ・アジア（株）まで点検、修理に出して下さい。現地でダイビングを行う前にも、必ず点検をしなくてはなりません。

⑤本製品の警告マークや注意メッセージなどには、直ちに従わなくてはなりません。

⑥スキューバダイビングへ出かける前に、必ずバッテリー残量をチェックしなくてはなりません。（P16参照）

●スキューバダイビングへ出かける前に必ず、全モード（ログモードを除く）に表示されるLOWバッテリー警告をチェックしなくてはなりません。

●LOWバッテリー警告が、点灯、点滅している場合はログ等を記録して、必ず速やかにプロショップを通しスキューバプロ・アジア（株）へバッテリー交換に出して下さい。

⑦お客様自身で、本製品の分解、修理、改造、調整、バッテリー交換をしては絶対にいけません。

適切な知識がないのに本製品の分解、修理、改造、調整、バッテリー交換を行うと、本製品の故障の原因となり、事故や生命に危険を及ぼす原因になります。

⑧使用頻度にかかわらず毎年1回の点検をしなければいけません。

1年に一度または、3ヶ月以上ご使用にならなかった時は、ご使用前にプロショップを通しスキューバプロ・アジア（株）で点検をしてからご使用下さい。

⑨本製品の取扱いや保管に、十分注意を払わなくてはなりません。P49、50の「取扱上の注意」を必ず読まなくてはなりません。



●直射日光があたったり、高温や低温での保管は避け、乾燥した風通しのいい涼しい所に保管して下さい。

●使用後は必ず真水で洗って下さい。

●極端な衝撃（高所からの落下など）や、荷重（空気タンクの下置きなど）を与えないで下さい。

必ずお読み下さい！ ご使用にあたっての危険事項



本製品を使う前に、安全なダイビングのために、以下の事項を厳守しなくてはなりません。厳守しないと事故や、生命に危険を及ぼすことになります。

① 本製品は、レクリエーションダイビング用に開発されたものです。

本製品をレクリエーションダイビング以外の目的で使用してはいけません。

② 本製品は、圧縮空気でのダイビング用です。

本製品は、圧縮空気以外の混合ガスでのダイビングには使用できません。

③ 本製品は、健康で平均的体力を持った人を基準に設計しています。

本製品の設計基準は、一般の健康で平均的体力を持った人です。個々のダイバーは必ず自分にあった安全なダイビングの計画と進行を、責任を持って行わなくてはなりません。

④ 本製品は、レクリエーションダイビング向けに開発されたものです。

- 無減圧ダイビングでの使用が前提ですが、万一のため、減圧ダイビングの情報も提供します。しかし減圧ダイビングは、危険なため避けなくてはなりません。
- 本製品は、職業ダイバー用ダイブコンピュータウォッチではありません。

⑤ 本製品は個人で単独に使用することを前提に設計しています。



他の人に貸す場合は、完全に初期状態になっている（体内空気量のバーグラフが0）ものだけに限り、反覆潜水時には絶対に貸してはいけません。

⑥ 本製品は、減圧症などの疾患を予防できません。

本製品は、減圧症をはじめ様々な疾患を予防できません。従って、表示よりも控えめなダイビングを行わなくてはなりません。

⑦ 十分な安全停止、減圧停止など余裕をもったダイビングをしなくてはなりません。

- 余裕を持ったダイビングを行って下さい。無減圧ダイビングでも、深度15m以上のダイビングをした場合は必ず深度3～6mで安全のための停止をして下さい。
- 減圧停止の表示が出た場合は、表示された時間よりも長めの停止をお勧めします。その時、必ずタンク内の空気残圧も確認しなくてはなりません。

⑧ 本製品は、エア残量などを計測、表示、管理しません。

本製品は、エア残量を計測、表示、管理しません。従って自分で残圧計を用意し、必ずチェックしなくてはなりません。

⑨ バックアップツールとして他の機器（ダイブコンピュータ、水深計、ダイバースウォッチ等）と併用して下さい。

安全を考え、バックアップツールとして、ダイブコンピュータ、水深計、ダイバースウォッチ等を併用することをお勧めします。

⑩ 本製品の示す情報を定期的にチェックし、あなたのダイブプランと比較しなくてはなりません。

ダイバーとしての「常識」を、 守らなくてはなりません

- ① 本製品は、ダイビング終了後も高度ランクに応じ、減圧計算を行っています。ダイビング終了後の急激な高度変化は危険です。

本製品は、ダイビング終了後も高度ランクに応じ減圧計算を行っています。高度ランクが急に変化すると大変危険です。従ってダイビング終了後、高度ランクが変わるような移動は絶対避けて下さい。

- ② 飛行機搭乗にご注意下さい。

1日2ダイブ以上のスキューバダイビングを2日以上続けて行った場合や、減圧停止が要求されたダイビングを行った場合、最低24時間、できれば48時間は休憩をし飛行機への搭乗は避けて下さい。

- ③ 本製品は、海水使用を前提としています。淡水では実際の深度と多少異なる深度を表示することがあります。



- ④ 減圧停止指示を無視した場合、48時間以内にダイビングができないように設定されたロック機能を持っています。(P32、33参照)

ロック機能は、工場工程内検査のため、強制解除機能もありますが、ダイビングでロック状態となった場合絶対に解除機能は使用しないで下さい。また、誤って解除機能が働いた場合も48時間は絶対にダイビングをしてはいけません。守られない場合は、生命に危険を及ぼすことになり、最悪の場合は死亡ということも考えられます。

- ⑤ アレルギーの方や皮膚の弱い方へ

肌に直接装着した場合、皮膚の弱い方やアレルギーの方はまれにかぶれることもあります。その場合は使用を中止し、皮膚科にご相談下さい。

スキューバダイビングは危険を伴うスポーツです。Cカードを取得したスポーツダイバーとして、以下の常識を守らなくてはなりません。さもないと事故や、生命に危険を及ぼすことになります。

- ① スキューバダイビングを行う時は、必ず良好な健康状態であってはなりません。

- ② スキューバダイビングを行う前に、飲酒や薬品等の摂取をしてはいけません。

- ③ スキューバダイビング前に、入念な潜水計画、打合せをしなくてはなりません。もちろんダイビング前に入念なバディチェックは、当たり前です。

- ④ スポーツダイビングの安全範囲を超えたダイビング(大深度、長時間)や単独潜水(バディなし)をしてはいけません。

- ⑤ 常に自分のレベルやトレーニングに合わせたダイビングをしなくてはなりません。

- ⑥ ダイブテーブルおよびダイビングに関する十分な知識が絶対に必要です。

- ⑦ 浮上速度には十分注意を払わなくてはなりません。

- ⑧ 窒素酔い防止のため、30m以深でのダイビングはやめて下さい。

I 本製品の概略

1. 各部の名称



2. 画面のマークの見方

画面には次のようなマークが必要な時に表示されます。その意味を覚えておく必要があります。



- ① NO STOP: 無減圧脱気時間を意味する表示
- ② °C: 水温の単位。摂氏
- ③ M: 深度の単位。メートル
- ④ DECO: DECOMPRESSION STOPのマーク。減圧停止の意味で、減圧ダイビング警告や減圧停止指示違反時に点滅表示
- ⑤ TIME SET: TIME SETの略。時刻修正モードを示すマーク
- ⑥ AL: ALARMの略。ダイブタイムアラームモードを示すマーク
- ⑦ [Battery Icon]: バッテリーマーク (P16参照)
- ⑧ SURF.T: SURFACE TIMEの略。水面休憩時間を意味する表示
- ⑨ DIVE.T: DIVE TIMEの略。潜水時間を意味する表示
- ⑩ DESAT.T: DESATURATION TIMEの略。体内窒素排出時間を意味する表示
- ⑪ DIVE: ダイブモードを示すマーク。ダイビング中は常に点滅表示
- ⑫ MIN: MINUTEの略。分を意味する表示
- ⑬ SLOW: その深度での最大浮上速度より、実際の浮上速度が遅い場合に警告として、点滅表示

- PLAN: DIVE PLANの略。ダイブプランモードを示すマーク
- LOG: ログモードを示すマーク
- ▲: 高度ランクを表すマーク
- TOTAL: 減圧ダイビング時の減圧停止時間を含め、水面までの浮上にかかる時間を意味する表示
- Ave: AVERAGE の略。平均深度を意味する表示
- ⚠: アラームマーク。ダイブタイムアラームが有効な時に点灯 (P23参照)
- MAX: MAXIMUMの略。最大深度を意味する表示

3. 装着の仕方

①必ず手首に装着して下さい。



手首以外の場所に装着すると、正常なデータを表示しないことがあります。また、落下するおそれもあり、破損やセンサーの故障の原因になります。必ず手首に装着して下さい。

②装着時の注意



- 付けはずしの際、落とさないよう注意して下さい。
破損や紛失防止のため、正しく装着してきたか必ず確認して下さい。
- ダイビングスーツによっては、水圧で生地が厚さが変化するものもあるので、ダイビング中にフックの位置を変える必要もあります。

4. 特徴

①演算モデル

A. A. ビュールマン博士の理論と研究に基づき、C. ランディ・ボーラー氏によって開発された演算モデルを使用しています。この演算モデルは、5分から473分までのハーフタイムと、詳細な9コンパートメント(身体区画)を考慮しています。

②厳選したダイブコンピュータ機能

厳選した、ダイブコンピュータ機能を搭載しています。見やすい深度のバーグラフ表示も搭載。反覆潜水に対応したダイブプラン、高所潜水や減圧ダイビングにも自動対応。警告音と表示点滅で知らせる浮上速度違反警告や減圧ダイビング警告、減圧停止指示違反警告、さらに一目で読みとれる体内窒素量のバーグラフ表示など、安全機能も網羅しました。

③ダイブタイムアラーム機能

ダイブプラン通りにダイビングを行えるよう、ダイブタイムアラームを搭載。ダイブタイムを簡単にセットでき、時間がくるとアラームで知らせます。

④充実のログ機能

ログデータを10本記録。潜水月日、エントリー&エキジット時刻表示はもちろん、平均深度、最大深度、最大深度時水温まで表示する多彩なログブック機能は、レクリエーションダイバーの待望の機能です。

⑤視認性の高い画面、バックライト同等の蓄光性画面

視認性の高い画面構成。モード移行のほとんどは、ひとつのスイッチを押すだけで操作性も抜群です。また水中ライトを近づければ、バックライトと同等の明るさで画面が光ります。

⑥ハイレベルなダイバーの最適なバックアップギア

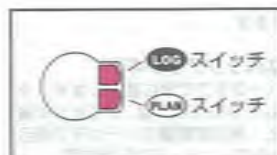
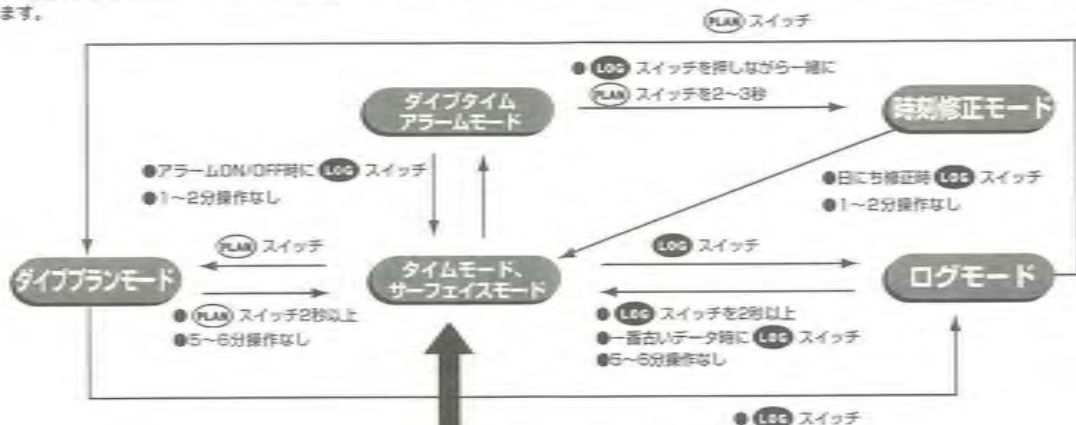
タイムモード時でも、体内窒素量をバーグラフで常に表示します。そこでダイビング時以外でも常に装着していただければ、ダイビング後の止越えまたは飛行機搭乗待機時など、体内窒素量のバーグラフ表示の変化が安全への素晴らしい指標になるでしょう。(P35,36参照)

I 本製品の概略

5. 表示モード

5.1 モードの変更一覧

各モードへ変更する場合は、PLANスイッチやLOGスイッチを単独で、あるいは同時に押して変更します。モードの変更時の操作方法は、以下のようになります。



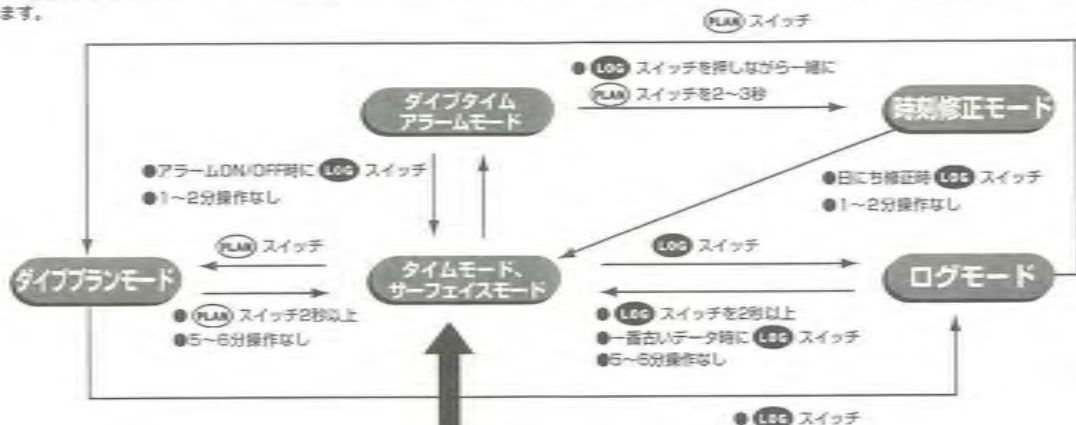
エキジット
自動

水面

ダイブモード

LOS スイッチを押している間
(最大水深)と(現在水深)を表示

④ PLAN スイッチを押している間、
《現在月日》と《現在時刻》を表示



14

II LOWバッテリー警告

5.2モード説明

タイムモード

日常使用時のモードです。現在月日、曜日、時刻、秒は常に、必要な場合は体内窒素量のバーグラフ、高度ランクがマークで表示されます。

時刻修正モード

現在時刻、月日、年号を修正するモードです。

ダイブプランモード

ダイビングを計画するためのモードです。深度 9 ~ 48m 間で 3m ごと、初回潜水、反覆潜水での無減圧限界時間を確認できます。

ダイブタイムアラームモード

事前にダイブタイムをセットしておく、ダイビング中、その時間になるとアラームで知らせます。

ダイブモード

ダイビング時のモードです。無減圧ダイビング時、減圧ダイビング時の機能の表示があります。4種類の警告(浮上速度違反警告、減圧ダイビング警告、減圧停止指示違反警告、計測範囲外警告)も発令され、アラームと表示点滅で警告します。

サーフェイスモード

ダイビング終了後、水面から上がると自動的にサーフェイスモードになり、現在月日、現在時刻、体内窒素排出時間、体内窒素量(バーグラフ表示)を表示します。(高度変化があった場合、高度ランクも表示)

ログモード

ダイビングの各種データを記憶する機能で、最大10本のログデータを保持します。潜水月日、エントリー&エキジットタイム、平均深度、最大深度、最大深度時水深、体内窒素量など詳細なデータを表示。

自動高所対応

現在地の高度を自動的に計測し、高度ランクマークで表示します。高度ランクマークは、0 ~ 6001m以上まで5ランクあります。(P41、42参照)

1. 機能説明

全てのモード(ログモードを除く)で、LOWバッテリー時に、LOWバッテリー警告が発令されます。LOWバッテリーになると、画面にLOWバッテリーマークが点灯あるいは点滅し現れるので、バッテリー交換をしなくてはなりません。



LOWバッテリーマークが点灯あるいは点滅したら、速やかにプロショップを通しキューパプロ・アジア(株)までバッテリー交換に出して下さい。



- ダイビングを行う時は、必ずバッテリー容量を確認して下さい。バッテリーが点灯、点滅している場合は、ダイブモードへは切り替わりません。
- バッテリー交換を行うとログデータは消去されるので、LOWバッテリー警告が発令された(LOWバッテリーマークが点灯・点滅した)時は、ログ等を記録し、速やかにバッテリー交換に出して下さい。
- バッテリーの容量がなくなってから長い間放置しておく、漏液の可能性があります。早めに、プロショップを通しキューパプロ・アジア(株)へバッテリー交換に出して下さい。

Ⅲ タイムモード

1. 機能説明

時計機能のモードです。状況に応じて体内窒素量はバークラフで、高度ランクは高度ランクマークで表示します。



画面表示の意味は、次の通りです。

- 曜日：現在の曜日
- 現在時刻：現在の時刻。24時間表示。コロンの点滅
- 秒：現在の秒
- 現在月日：現在の月と日。月と日にち表示
- 高度ランク：現在の場所の高度を自動的に計測し、それに応じた高度ランクマークを自動的に表示します。

<上画面は>2月12日 金曜日 10時35分48秒を示しています。

タイムモードから他のモードへ



- LOGスイッチを押す → ログモード
- PLANスイッチを押す → ダイブプランモード
- LOGスイッチを押しながらPLANスイッチも一緒に2〜3秒押し続ける → ダイブタイムアラームモード
- オートスイッチON（水に入るなど水分を感じると） → ダイブモード

Ⅳ 時刻修正モード

1. 機能説明

現在時刻、現在月日、現在年号を設定するためのモードです。



ダイビング終了後10分未満の場合は、時刻修正モードになりません。



画面表示の意味は、次の通りです。

- 現在月日：現在のカレンダー。年、月、日にち表示で1999年1月1日〜2050年12月31日まで完全自動カレンダーです（曜日の設定は必要ありません）。
- T.SET：時刻修正モードを示すマーク
- 現在時刻：現在の時刻。時、分、秒表示で24時間表示（時刻設定後、年号に移行します）。

<上画面は>2月12日 10時35分48秒を示しています。

V ダイブプランモード

2. 時刻修正方法

- ①ダイブタイムアラームモードから、時刻修正モードにする
- ダイブタイムアラームモードで、ダイブタイムアラームセットの000分～199分の間に、もう一度LOGスイッチを押しながら一緒にPLANスイッチを2～3秒押すと時刻修正モードになります。2つのスイッチを一緒に押している間<T.SET>マークは消灯、<T.SET>マークが点灯します。

②修正する桁を選択

- LOGスイッチを押すごとに修正する桁が変わります。
- 秒→分→時→年→月→日にちの順で変わり、選択された桁が点滅するので、望みの桁でスイッチを押すのをやめます。



日にち修正の時にLOGスイッチを押すと、タイムモードに戻ります。

③数値を修正する

- PLANスイッチを押すごとに修正桁の数値が変わり点滅表示されるので、望みの数値で押すのをやめます。PLANスイッチを押し続けると早く変わります。LOGスイッチを押してセット終了です。

時刻修正モードから他のモードへ

- 日にち修正の時にLOGスイッチを押す
→タイムモード or サーフェイスモード
- オートリターン(1～2分スイッチ操作をしない)
→タイムモード or サーフェイスモード
- オートスイッチON(水に入るなど水分を感知する)
→ダイブモード



1. 機能説明

ダイビング計画を立てるモードです。初回潜水(下①図)はもちろん、反復潜水(下②図)にも対応しています。



画面表示の意味は次の通りです。

- 深度ランク : 深度9～45mまで、3mごとに選択可能
- 深度ランクのバーグラフ : 11のブロックに分けたバーグラフで深度ランクを表示
- PLAN : ダイブプランモードを示すマーク
- 無減圧限界時間 : 減圧をすることなく潜れる潜水時間。最大200分まで表示
- 体内容量 : 現在の体内容量を、バーグラフで表示
- 水深休憩時間 : ダイビング後の経過時間。ダイブモードで1.5m以上浅くなった時点より計測を開始。ただし10分未満で再度1.5m以上になった場合は、前回ダイビングの継続とみなします。最大43時間まで計測し、1分経過後、無表示になります。
- 高度ランク : 現在の場所の高度を自動的に計測し、それに応じた高度ランクマークを自動的に表示します。

V ダイブプランモード



【1図 体内窒素なし】



【2図 体内窒素あり】

<上画面は>

- ①図→深度3mで、無減圧限界時間が200分以上を示しています。
 ②図→前回のダイビングから現在1時間5分の水面休息時間が経過し、この状態で深度9mでダイビングをすると、無減圧限界時間が200分以上あることを示しています。現在の体内窒素量は2ランクです。

2. 深度のバーグラフ表示

深度を11ブロックで表現します。バーグラフの点灯数と深度は、以下のように対応しています。

バーグラフ点灯	1	2	3	4	5	6
深度 (m)	1.5~3.0	3.1~6.0	6.1~9.0	9.1~12.0	12.1~15.0	15.1~20.0

バーグラフ点灯	7	8	9	10	11
深度 (m)	20.1~25.0	25.1~30.0	30.1~35.0	35.1~40.0	40.1~

現在深度が40.1m以上（バーグラフ11個）の場合は、バーグラフ11番目が点滅表示となります。

3. ダイブプランの立て方

①ダイブプランモードにする



タイムモードあるいはサーフェイスモード、ログモードからPLANスイッチを押し、ダイブプランモードにします。

②深度ランクを設定し、対応する無減圧限界時間等を見る



1. PLANスイッチを押すごとに、深度ランクが変わります。深度ランクは9mから48mまで3mごと、浅い方から深い方へ順次表示します。48mを表示後、PLANスイッチを押すと9mに戻ります。
2. 希望の深度でPLANスイッチを押すのをやめ、希望の深度での無減圧限界時間等の表示を見ます。

<深度ランク>

9m, 12m, 15m, 18m, 21m, 24m, 27m, 30m, 33m, 36m, 39m, 42m, 45m, 48m

反覆潜水で体内に窒素がある場合は水面休息時間と体内窒素量のバーグラフが表示されます。



安全のため、表示されている無減圧限界時間よりも余裕のあるダイブプランを立てて下さい。

ダイブプランモードから他のモードへ



●LOGスイッチを押す

→ログモード

●PLANスイッチを2秒以上押し続ける

→タイムモードForサーフェイスモード

●オートリターン (5~6分スイッチ操作をしない)

体内窒素がない場合→タイムモード

体内窒素がある場合→サーフェイスモード

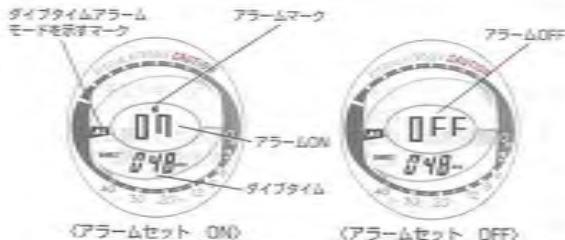
●オートスイッチON (水に入るなど水分を感知する)

→ダイブモード

VI ダイブタイムアラームモード

1. 機能説明

事前にダイブタイムをセットするモードです。ダイブタイムをセットしておく。ダイビング中、その時間になるとアラームで知らせます。1分～199分までのダイブタイムアラームを設定できます。



画面の表示は、次の通りです。

- **AL** : アラームマーク。ダイブタイムアラーム機能が有効な時に点灯します。その後、ダイブタイムアラームが鳴るまで、ログモード、時刻修正モード以外の各モードで点灯します。
- **AL** : ダイブタイムアラームモードを示すマーク
- **ダイブタイム** : アラームを鳴らすダイブタイムの時間
- **アラームON** : ダイブタイムアラームを有効に設定する時に表示
- **アラームOFF** : ダイブタイムアラームを無効に設定する時に表示

2. ダイブタイムアラームの設定&解除方法

①ダイブタイムアラームモードを呼び出す

- タイムモードあるいはサーフェイスモードからLOG スイッチを押しながらPLANスイッチも一緒に2～3秒押し続け、ダイブタイムアラームモードにします。LOG とPLANスイッチ入力中は、ダイブタイムアラームモードのマーク<AL>が点滅。ダイブタイムアラームモードに変わった時に、<AL>が点灯します。

②ダイブタイムをセットする

- 1. LOG スイッチを押すごとに修正する桁が変わります。
- 2. 1の位→10の位→100の位→アラームON/OFFの順で変わり、選択された桁が点滅するので、望みの桁でスイッチを押すのをやめます。



アラームON/OFFの時にLOGスイッチを押すと、タイムモードあるいはサーフェイスモードに戻ります。

③数値を修正する

- 1. PLANスイッチを押すごとに修正桁の数値が変わり点滅表示されるので、望みの数値で押すのをやめます。PLANスイッチを押し続けると早く変わります。LOGスイッチを押してセット終了です。

ダイブタイムアラームモードから他のモードへ

- **アラームON/OFF時にLOG スイッチを押す** →タイムモードor サーフェイスモード
- **オートリターン** (1～2分スイッチ操作をしない) →タイムモードor サーフェイスモード
- **オートスイッチON** (水に入るなど水分を感知する) →ダイブモード

Ⅶ ダイブモード

1. 機能説明

スキューバダイビングをしている時の状態を示すモードです。水に入るなど水分を感知すると、自動でスイッチが入り、ダイブモードになります。ダイブモードには、無減圧ダイビングと減圧ダイビングの機能表示があり、各々次の機能を表示します。

2. メイン画面表示

① 無減圧ダイビング

無減圧限界時間を越えないダイビングでは、次の画面を表示します。



② 減圧ダイビング

無減圧限界時間を越えたダイビングでは、次の画面を表示します。



画面表示の意味は、次の通りです。

- 体内容量量 : 現在の体内容量の量。バーグラフで表示
- 現在深度 : 現在の深度。1.5mから深度を表示します。計測間隔は1秒ごとで、10cm単位で表示
- 潜水時間 : ダイビングしている時間で、深度1.5 mから計測を開始し1.5mで浅く終了です。分単位で表示
- 現在深度のバーグラフ : 11のブロックに分けたバーグラフで現在深度を表示
- DIVE : ダイブモードを示すマーク。ダイブモード中は常に点滅表示
- 無減圧限界時間 : 現在までのダイビング行程から計算した、現在深度で無減圧ダイビングが可能な時間。分単位で表示
- DECO : 減圧ダイビングを示すマーク
- トータル浮上時間 : 減圧停止を行い、8m/分で浮上する場合の、現在深度から水面までの浮上に要する時間。分単位で表示
- 減圧停止時間 : 減圧停止深度に停止している時間で潜水状態に応じて計算し表示。減圧を行うことにより、カウントダウンしていきます。分単位で表示
- 減圧停止深度 : 減圧すべき深度で15m、12m、9m、6m、3mがあり、潜水状態に応じて計算され、一番深い深度を表示します。
- 高度ランク : 高所に当てはまる場合は、ダイビング開始時の高度ランクを高度ランクマークで表示

<①画面は>

現在深度17.8m、潜水時間25分、無減圧限界時間44分、体内容量量ランク4を示しています。

<②画面は>

現在深度10.3m、潜水時間57分、深度8mで1分の減圧停止が必要、この減圧停止を含め水面までのトータル浮上時間は9分、体内容量量9ランクを示しています。

3. 現在深度のバーグラフ表示

現在深度を11のブロックで表現しているの、深度の目安になります。バーグラフの点灯数と深度は、以下のように対応しています。

バーグラフ点灯数	1	2	3	4	5	6
深度 (m)	1.5~3.0	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1~10.0	10.1~15.0	15.1~20.0

バーグラフ点灯数	7	8	9	10	11
深度 (m)	20.1~25.0	25.1~30.0	30.1~35.0	35.1~40.0	40.1~

現在深度が40.1m以上（バーグラフ11個）の場合は、バーグラフ11番目が点滅表示となります。

4. 水中でLOG スイッチを押す

無減圧ダイビング、減圧ダイビングともに、水中でLOG スイッチを押している間、次の画面を表示します。



画面表示の意味は、次の通りです。

- 現在水温 : 現在の水温。計測間隔は1分ごとです。
- 最大深度 : 現在までで、一番深かった時の深度。10cm単位で表示

<上画面は>

現在水温23.8℃、最大深度29.6mを示しています。

5. 水中でPLANスイッチを押す

無減圧ダイビング、減圧ダイビングともに、水中でPLAN スイッチを押している間、次の画面を表示します。



画面表示の意味は、次の通りです。

- 曜日 : 現在の曜日
- 現在時刻 : 現在の時刻。時、分単位で24時間表示
- 秒 : 現在の秒
- 現在月日 : 現在の日付。月と日にち表示

<上画面は>

2月12日金曜日10時35分48秒を示しています。

Ⅶ ダイブモード

6. 体内窒素量のバーグラフ表示（ダイビング時）

ダイビングによって蓄積・排出される体内窒素量を、9つのブロックで表現したものです。9ブロックが全て点灯した場合を100%とし、現在の状況を視覚的に知ることができます。

①注意ゾーン



バーグラフの上の中央、白（一部モデルは黒）と赤（一部モデルはオレンジ）に2分したブロックの赤部分から、「注意ゾーン」が始まります。

バーグラフが注意ゾーンに入る（赤ブロックの右側）ほど、体内窒素量が増加し危険度が高くなります。バーグラフが注意ゾーンに入らないようにすれば、無減圧ダイビングを維持できます。また入った場合は、浅い方へ移動するなど、目安として利用できます。



②バーグラフの見方&利用法

体内窒素量の増加：

- 体内窒素量が増加すると、左よりバーグラフの数が増加。
- 9つ全て点灯した時、減圧ダイビングモードに入る。

体内窒素量の減少：

- 体内窒素量が減少すると、右よりバーグラフの数が減少。
- 減圧ダイビングから無減圧ダイビングに移行した時、バーグラフは9個から8個、あるいはそれ以下に減少。

安全停止での利用：

安全停止を行うと体内から窒素が排出されるので、バーグラフ表示が減少します。そこでバーグラフを1個、あるいは2個減るのを確認することで、安全停止の目安になります。



- ダイビング終了時には、バーグラフが注意ゾーンより少ない状態であることをお勧めします。
- このバーグラフが注意ゾーンにある状態でそのまま浮上した場合、減圧症の危険性は高くなります。
- ダイビング終了時、車等で高所へ移動する可能性がある場合は特に注意が必要です。バーグラフが注意ゾーンにある状態で、高所への移動は絶対に行わないで下さい。



ダイビング時以外の体内窒素量のバーグラフ表示はP35、36に掲載されています。

7. 警告機能

危険なダイビングを行った場合、次の警告機能があります。

①減圧ダイビング警告

無減圧限界時間を越え、減圧ダイビングの状態になった場合、<DECO>の表示点滅と3秒間鳴り続けるアラームで警告します。後、減圧ダイビング時の表示に変わります。減圧ダイビング警告は、ログデータにも記録されます。



③浮上速度違反警告

深度に応じた浮上速度を越えて浮上した場合、＜SLOW＞、現在深度（図では＜17.8M＞）の点滅表示と、3秒間鳴り続けるアラームで警告します。この警告は表示点滅のみ、浮上速度が安全速度になるか、あるいは深度が1.5m以上になるまで続きます。浮上速度違反警告はログデータに記録されます。

[浮上速度違反警告]



安全のため、本製品の浮上速度よりもゆっくり浮上しなくてはなりません。

浮上速度は、深度によって次のように設定されています。

深度	浮上速度
0.0～5.9m	8m/分
6.0～17.9m	12m/分
18.0m以上	16m/分

④減圧停止指示違反警告

現在深度が指示された減圧停止深度よりも浅い場合、＜DECO＞、減圧停止深度と減圧停止時間（図では＜6m 1＞）、現在深度（図では＜2.3M＞）の点滅表示と、3秒間鳴り続けるアラームで警告します。指示された深度以上で潜れば警告は止まります。指示された深度以上で潜らない場合は表示点滅のみで警告し続けます。減圧停止指示違反警告はログデータにも記録されます。



[減圧停止指示違反警告]



- 万一警告を無視し浮上した場合、浮上後約5分経過後、減圧停止指示違反の画面のまま、48時間ロックされます。
- 減圧停止は指示通りの深度で行わなくてはなりません。指示より浅い深度は絶対に避けて下さい。海の状況により守れない時は、1～2m深めの深度で行って下さい。その際減圧停止に要する時間は長くなります。



減圧停止指示違反警告が出ている場合、減圧停止時間およびトータル浮上時間はあくまで目安です。



減圧指示違反警告でロック状態となった場合、減圧指示を無視して浮上したものとみなされるので、減圧症になる危険があります。必ず指示に従って減圧停止を実行して下さい。

Ⅶ ダイブモード

⑨ 計測範囲外警告

次の4種類の計測範囲外のダイビングを行った場合、計測範囲外を記録した項目が<--->で表示され、全ての表示点滅と3秒間繰り返し続くアラームで警告します。計測範囲外警告はログデータにも記録されます。

- ① 深度が計測範囲 (99.9m) を越えた時。(100m以下になれば再度表示)
- ② 潜水時間が599分を越えた時。
- ③ 減圧ダイビング時、15m以深で減圧停止が必要になった時。
- ④ 減圧ダイビング時、いずれかの減圧停止深度で減圧停止時間が100分以上になった時、またはトータル浮上時間が100分以上になった時。

計測範囲外警告例
深度が計測範囲を越えた時。



全点滅



- 計測範囲外警告が発令された場合、危険なダイビングを行ったものとみなし、水面上がってから、45時間経過するまでダイビングには使用できません。
- 計測範囲外警告時でも、無減圧限界時間や減圧停止時間等を表示しますが、あくまでも目安です。
- 計測範囲外警告が出ている時は、他の警告(浮上速度違反警告等)が発令されても見分けることができません。従って十分気をつけて浮上して下さい。このようなダイビングは絶対にしてはいけません。

ダイブモードから他のモードへ

- オートスイッチOFF(水中から上がる)
→ 自動でサーフェイスモード



Ⅷ サーフェイスモード

1. 機能説明

水面休息時のモードです。



2. 体内窒素量のバーグラフ表示

ダイビング後体内に溶け込んでいる窒素がある場合は、サーフェイスモードになります。体内窒素排出時間を表示し、体内窒素量はバーグラフで表示します。また高度が変化し体内に溶け込んでいる窒素量が増えた場合、高度に応じ計算した体内窒素量をバーグラフで表示します。

バーグラフの見方

体内窒素の増加：左からバーグラフが増え、点灯します。最大9のバーグラフが点灯します。

体内窒素の減少：点灯していたバーグラフが右から減少します。表示が全てなくなると、体内窒素が排出されたことを意味します。

〔高度ランク変化があった場合〕



バーグラフの上の中央、白（一部モデルは黒）と赤（一部モデルはオレンジ）に2分したブロックの赤部分から、「注意ゾーン」が始まります。ダイビング終了後、体内窒素量のバーグラフが、この注意ゾーンにある場合は、絶対に高所に移動（山越えなど）をしてはいけません。

体内窒素量がない状態でも高度ランクが変化すれば、高度ランクマークが表示され自動的にサーフェイスモードへ移行し、体内窒素量のバーグラフが点灯し、体内窒素排出時間が表示され、排出計算を行います。



- 体内窒素量が多い時（バーグラフの表示が7～8個）、高度ランクの変更によって、体内窒素量のバーグラフが9個点灯することがあります。この場合は安全のため、ダイブモードにはなりません。窒素が排出され、バーグラフが8個以下になればダイブモードに復帰します。
- 体内窒素量のバーグラフが消えてから、飛行機搭乗をお勧めします。表示が消えている場合でも、ダイビング後最低24時間の地上待機時間を設けて下さい。
- 体内窒素量のバーグラフと体内窒素排出時間の点灯するタイミングは、1～2分の誤差が生じることがあります。

サーフェイスモードから他のモードへ

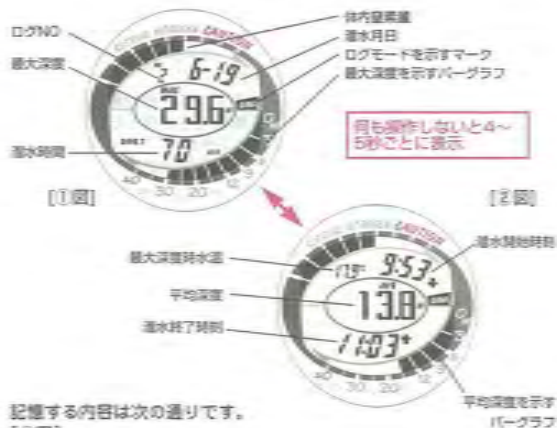


- LOGスイッチを押す → ログモード
- PLANスイッチを押す → ダイブプランモード
- LOGスイッチを押しながら、PLANスイッチを一連に2～3秒押し続ける → ダイブタイムアラームモード
- オートスイッチON（水に入るなど水分を感じると） → ダイブモード

Ⅹ ログモード

1. 機能説明

深度1.5m以上かつ潜水時間が3分以上のダイビングの、各種データを記憶する機能です。ダイビングごとに順次記憶され最大10本分のログデータを保持します。10本以上ダイビングをした場合は、古いデータから削除され新しいデータが加えられます。



記憶する内容は次の通りです。

- 〔1図〕
- ログNO : 同一潜水月日に於ける番号
 - 最大深度 : ダイビング中で一番深かった時の深度。10cm単位で表示
 - 潜水時間 : ダイビングをした時間。分単位で表示
 - 最大深度を示すバークラフ : 最大深度をバークラフで表示
 - LOG : ログモードを示すマーク
 - 潜水月日 : ダイビングをした日付
 - 体内温度 : ダイビングを終了した時の体内温度。バークラフで表示

●高度ランク : 高所に当てはまる場合、ダイビングを行った時の高度ランクを高度ランクマークで表示

<P37の①図は>

ログNO 3、潜水月日 6月19日、最大深度29.6m、潜水時間7.0分を表示しています。

何も操作をしないと、4~5秒ごとに①図、②図の画面が交互に表示されます。

〔2図〕

- 最大深度時水温 : 最大深度の時の水温。計測範囲は-5℃~40℃です。それ以外の場合下図のようになります。
- 平均深度 : ダイビング中の平均深度。10cm単位で表示
- 潜水終了時刻 : ダイビングを終了した時刻。時分単位で表示
- 平均深度を示すバークラフ : 平均深度をバークラフで表示
- 潜水開始時刻 : ダイビングを開始した時刻。時分単位で表示

<P37の②図は>

最大深度時水温17.9℃、平均深度13.8m、潜水開始時刻 9時53分、潜水終了時刻11時3分を表示しています。

最大深度時水温が、計測範囲を超えた場合（-5℃未満、40℃超過）の表示



（-5℃未満）



（40℃超過）



ログデータはバッテリー交換を行うと、全て消去されます。ログブック等に控えておいて下さい。

2. その他の記録

そのダイビングに応じ、以下のような記録が残ります。

①減圧ダイビング

ダイビング中に減圧ダイビングを行った記憶で、<DECO>マークが点灯します。



②各種警告

ダイビング中に発生した警告です。警告内容の詳細についてはダイブモードを参照して下さい。



[浮上速度違反警告]



[減圧停止指示違反警告]



[計測範囲外警告例]

深度が計測範囲を超えた時の計測範囲外警告

3. ログモードの操作方法

①ログモードを呼び出す

タイムモードあるいはサーフェイスモード、ダイブプランモードから、LOGスイッチを押してログモードにします。

②目的のログNo. (潜水番号) を呼び出す

LOGスイッチを押すと、最新の日付けの最新のダイビングのログから順にログデータを読み出します。
ログ10本目を表示後、LOGスイッチを押すとサーフェイスモードに変わります。
ログNo.1が一番新しいダイビングのデータで、ログNo.2、ログNo.3の順で古くなります。



ログ表示には上のように「[1]図」と「[2]図」の2つの画面があり、何もスイッチ操作をしないと、4~5秒ごとに交互に表示されます。

ログモードから他のモードへ



- LOGスイッチを2秒以上または、一番古いデータ時に押す。
→タイムモードForサーフェイスモード
- PLANスイッチを押す→ダイブプランモード
- オートリターン (スイッチ操作を5~8分しない)
体内窒素がない場合→タイムモード
体内窒素がある場合→サーフェイスモード
- オートスイッチON (水に入るなど水分を感知する)
→ダイブモード

X 自動高所対応

1. 機能説明 (高度ランク)

現在地の高度を自動的に計測し、高度ランクマークで表示します。実際の高度と、高度ランクマークの関係は下図と右ページのようになっています。

高度計測は、全てのモード(時刻修正モード、ダイブモード、ダイブタイムアラームモードを除く)で10分ごとに行います。

現在の高度ランクマークの表示は、全てのモード(時刻修正モード、ログモード、ダイブタイムアラームモードを除く)で表示されます。ただしログモードでは、ダイビング時の高度ランクが表示されます。

高度ランクマークの表示



[高度ランク1]



[高度ランク2]



[高度ランク3]



[6001m以上]

高度ランク	表示	高度
0	表示なし	0~600m
1		601~1600m
2		1601~2400m
3		2401~6000m
Err	 秒表示または体内窒素排出時間がErrに	6001m以上



飛行時等、急激な気圧変化があるところでは、絶対に水検知スイッチを触ったり、濡らしたりしないで下さい。



6001m以上は<Err>表示となり使用不可能となりますが、6000m以下の高度に戻れば復帰します。体内窒素量が存在していた場合、6001m以上になった時点で、体内窒素排出時間の計算および表示を中断し、<Err>表示をしますが、水面休憩時間は計測し続けます。高度が低くなった場合、6000mになる前の状態からの継続として、体内窒素排出時間の計測および表示を行います。また何らかの原因で高度が測定できない場合は、同様の表示・処理を行います。

トラブルシューティング




修理にお出しになる前に、このリストを参考にもう一度点検してみましょう。

次のリストは本製品の作動が異常と思われる時、適切な判断をするために、状況、原因、処理、予防を網羅したものです。リストにある処理をしても正常に作動しない時や、リストにはない異常が見られた場合はプロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)まで修理に出して下さい。

状 況	原 因	処理・予防
ディスプレイ上に虹色がある ディスプレイの表示が薄い	温度差によるガラスの張力が原因です 低温時、表示が薄くなります バッテリー寿命の可能性があります	故障ではなく、問題ありません 常温になれば復旧します プロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)までバッテリー交換に出して下さい
最初から、ログモードにデータが入っている	品質検査のためのテストデータが残っているからです	故障ではなく、問題ありません
スイッチ操作をしてもモードが切り替えられない	ダイビング終了後、水検知スイッチが濡れているためです 上記以外の場合は、故障の可能性があります	水検知スイッチを良く拭いてから、もう一度入力して下さい プロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)まで修理に出して下さい
水面上でDECOマーク、減圧停止深度、減圧停止時間、現在深度が点滅する	減圧停止指示違反を冒したためです	●減圧停止指示違反が5分未満の場合は再度、指示された深度へ潜って下さい ●5分以上経過した場合は、使用不可能となり48時間後、自動的に復旧します
水面上で全表示が点滅する ダイブプランモードで無減圧限界時間が、バー表示になっている	計測範囲外警告が発令されたためです 計測範囲外警告が発令されたためです 高度ランクが6001m以上になり、高度マークが点滅表示している場合に起こります	使用不可能となり、48時間後自動的に復旧します 48時間後復旧します 高度が低くなれば復旧します
ダイブモードにならない	減圧停止指示違反警告、計測範囲外警告が発令されています バッテリー寿命がきています。LOWバッテリーマークが点灯、点滅していませんか？ 高地でのダイビングが原因です。高度ランクマークが点滅表示していませんか？ 上記以外の場合は、故障の可能性があります	48時間後復旧します プロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)までバッテリー交換に出して下さい 高度の低い場所へ移動すると復旧します プロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)まで修理に出して下さい

XI トラブルシューティング

状 況	原 因	処理・予防
ダイビング後、サーフェイスモードにならない	水検知スイッチが濡れているためです	水検知スイッチを、乾いた柔らかい布で綺麗に拭いて下さい
使用可能な高度において、高度ランクマークが点滅表示になったまま	故障です	プロショップを通して、スキューバプロ・アジア(株)へ修理に出して下さい
高度ランクがずれる	高度ランクの境界線に居る場合に起こります 極端に高温になっている場合に起こります 上記以外の場合は故障の可能性があります	故障ではなく、問題ありません 水につけるなどをして、冷やして下さい プロショップを通して、スキューバプロ・アジア(株)へ修理に出して下さい
サーフェイスモードで高度ランクマークが点滅している	高度ランクが6001m以上になった場合に起こります	高度が低くなれば復帰します
大気中でダイブモードになった	飛行機等急激な気圧変化があり、かつ水検知スイッチに触れるか、水検知スイッチが濡れている場合に起こります	飛行機等急激な気圧変化のある場所では、水検知スイッチに触れたり、濡らしたり絶対にしないで下さい。このような状態の場合は、水検知スイッチを試き10分ほど放置して下さい。サーフェイスモードになります
48時間ロック状態において、ロック状態がボタン操作で解除された		●工場における行程検査のため、ロック解除機能が付いていますが、ダイビングにおいてロック状態となった場合、絶対にロック解除は行わないで下さい ●偶然に解除された場合も非常に危険ですので、48時間が経過するまでダイビングを行わないで下さい
ディスプレイに何も表示をしない	バッテリー切れです	プロショップを通して、スキューバプロ・アジア(株)までバッテリー交換に出して下さい

状 況	原 因	処 理・予 防
ダイビングをしていないのにサーフェイスモードに入り、体内窒素排出時間が表示された	高度ランクの変更があったためです 	気圧の変化があった場合、自動的に体内窒素の計算を行います。ダイビング計画にお役立てください。
飛行機に搭乗したらサーフェイスモードに入り、体内窒素排出時間が表示された	飛行機の機内圧力は高度ランク2相当となっている場合が多いためです 	自動的に体内窒素の計算を行います。ダイビング時と同様に飛行機搭乗による体内窒素の吸入、排出の演算を行います。飛行機搭乗後のダイビング計画にお役立てください。
バッテリーが3年もたない	工場出荷時に組み込まれているバッテリーはモニターバッテリーですので、購入後バッテリー寿命が3年に満たないことがあります 1回1時間で年50回のダイビング、および1ダイビングで10秒のアラーム警鐘を前提としています。これ以上の使用はバッテリー寿命が短くなります	プロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)までバッテリー交換に出して下さい 
バッテリー交換後も、ディスプレイに何も表示しない	故障が考えられます	プロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)まで修理に出して下さい

1. 取扱い上の注意

① 使用後の手入れ

- ダイビングが終了した後は必ず真水で洗浄して下さい。ただし長時間水の中に放置しないで下さい。バッテリー寿命が短くなります。
- 洗剤および薬品類は使用しないで下さい。汚れや水垢が付着した場合は軟らかい布で拭き取るようにして下さい。



アルコール、ガソリン等の溶剤類、化粧品等のスプレー液やクリーナー液、接着剤および塗料などが付着したりアルカリ、芳香族炭化水素、ハロゲン化炭化水素等に変質します。これにより防水性能が弱くなりますので十分注意して下さい。

② 保管

- 乾燥した涼しいところで保管して下さい。ダイビング後は良く乾くよう、濡れたものと一緒にしないで下さい。
- 炎天下や車のダッシュボードなど、直射日光が当たり高温となる場所に放置しないで下さい。
- 極端な低温も避けて下さい。やむをえなく高温、または低温になってしまった場合は、常温に近い温度の水になじむまで放置して下さい。
- 極端な高温または低温で使用すると深度、高度ランク、水温などの計測精度が落ちるだけでなく、故障する可能性もあるので避けて下さい。



高温、多湿のところでの保管および放置は性能が劣化する可能性があります。特に圧力センサー性能に影響し、高度ランク、深度が違う表示をすることがあります。水中に入れるなどして温度を下げて下さい。



高温に長く放置すると液晶パネルが変質しますが、温度が下がれば正常に戻ります。ただし、液晶パネルの寿命が短くなるので避けて下さい。



故障していると思われる場合は、絶対に使用せず速やかにプロショップを通し、スキューバプロ・アジア(株)へ出し修理を行って下さい。



天候による気圧の変化によって高度ランクが違う場合があります。



プロショップ、またはスキューバプロ・アジア(株)以外で圧力チャンバーテストを絶対にしないで下さい。圧力センサーの精度が劣化します。



個人では絶対に分解しないで下さい。もし行った場合は保証できません。

2. 保証

2. 1 保証規定

1. 本製品が万一ご購入日より満3年以内、当社の責任とみられる故障を生じた場合、無料修理または交換をいたします。

2. スキューバプロ・アジア(株)、あるいは日本国内の正規ディーラーより販売された製品に限らせていただきます。

3. 必ずご購入後10日以内に、同封されている保証登録カード(販売店印およびお買い上げ日が記入されているもの)を、スキューバプロ・アジア(株)までお送り下さい。保証登録カードが返送されていない場合は、保証の対象にはなりません。

4. 保証期間中(ご購入後3年間)は、製品保証書(販売店印およびお買い上げ日が記入されているもの)をご提示下さい。製品保証書がないと、保証期間中でも修理が有料になります。

5. 保証期間中の修理、交換は、保証期間の延長にはなりません。

6. 万一故障した場合は、お買い上げ店もしくはスキューバプロ・アジア(株)まで、製品保証書を添付の上お申し出下さい。なお、お買い上げ店またはスキューバプロ・アジア(株)にご持参いただく際の諸費用と、郵送される場合の送料等はお客様にてご負担願います。

7. 次の場合は保証期間中でも、無料修理および交換の対象にはなりません。

- ① 使用上の誤り(取扱い説明書記載以外の操作等)により生じた故障。
- ② コマーシャルダイビングなど通常のレクリエーションダイビング以外の目的で使用された時。
- ③ レンタル用で使用された時。
- ④ 紛失、盗難。
- ⑤ 火災・天災・地震等による破損、故障、損傷等。
- ⑥ 事故による破損、故障、損傷等(たとえばケースや液晶画面、ガラス面の破損等)。
- ⑦ 保管上の不備や手入れの不備。

⑧ 不適当な使用や、乱暴な扱いがされた場合。

⑨ 当社以外で行われた修理・改造・分解による故障。

⑩ 当社以外による、改造やケースを開閉した跡が見られた場合。

⑪ 保証登録カードが返送されていない場合。

⑫ 製品保証書の添付のない場合。

⑬ 販売店印やお買い上げ日等の記載がない場合、ならびに記載事項を訂正された場合。

8. 保証の対象となる部分は本体のみで、ベルト等の付属品類およびバッテリー等の消耗品類は保証の対象にはなりません。またベルトを含め変色、色落ち、色あせ、他のものへの色落ちや付着なども保証の対象にはなりません。

9. 本製品の故障に起因する付随的損害(たとえばダイビングに要した諸費用およびダイビング等により得べき利益の損失等)については補償いたしかねます。

10. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。

2. 2 「製品保証書」および「保証登録カード」取扱いのご注意

1. 製品保証書および保証登録カードお受け取りの際は、販売店印やお買い上げ日等が記入されているかご確認下さい。記入漏れがある場合は、ただちに お買い上げ店へお申し出下さい。

2. 製品保証書、保証登録カードを紛失されましたも再発行いたしませんので、ご注意下さい。製品保証書は大切に保管して下さい。

3. 製品保証書は日本国内においてのみ、有効です。

* 製品保証書は保証規定により無料修理または交換をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制約するものではありません。

* ご不明な点は、指定のプロショップまたはスキューバプロ・アジア(株)までお問い合わせ下さい。

製品概要

1 精度

時間：平均月差±30秒
深度：±3%+50cm
温度：±2.0℃

2 計測範囲

深度：0.0～99.9m 計測間隔 1秒（海水を基準にしています）
潜水時間：0～599分
高度：0～6,000m 計測間隔 10分（ダイブモード、時刻修正モード、ダイブタイムアラームモードを除く）
温度：-5～+40℃ 計測間隔 1分（ダイブモードは水温を計測）
動作温度：-5～+40℃（低温時、表示が若干薄くなります）

3 防水性能

防水性能：100m

4 バッテリー寿命

使用バッテリー：CR2032

●約3年

条件・・・1時間のダイビングを年間50本、アラームは1回のダイビングで10秒間

●約7年

条件・・・時計機能のみ

安全のための注意事項

本製品を使ったダイビングでも、常に基本のダイビングルールは守って下さい。

●決して一人では潜らないで下さい。

●常に自分のレベルやトレーニングに合わせたダイビングをして下さい。
本製品は、あなたのダイバーとしての技術を向上させません。

●窒素酔いの危険を避けるため、30m以上の深いところへは潜らないで下さい。

「SCUBA GUMI」に関するお問い合わせは

SCUBAPRO®

本 社：Tel.045-775-2288 Fax.045-775-4420

大阪支社：Tel.06-6260-3311 Fax.06-6260-5911

「B.U.G. Jelly」に関するお問い合わせは



Tel.045-775-2292 Fax.045-775-4421

スキューバプロ・アジア 株式会社

本 社：〒236-0007 神奈川県横浜市金沢区白根4-2 マリーナプラザ5F
大阪支社：〒541-0059 大阪府大阪市中央区博愛町1-2-8 船場USビル7F